

第4回 長久手町住民会議報告

～「長久手まちづくり」住民サミット～

日 時：平成 20 年 5 月 29 日（木） 午後 7 時～9 時

場 所：長久手まちづくりセンター2 階集会室

住民会議メンバー：15 名

事 務 局：長久手町企画政策課 課長補佐、専門員、主事
コンサルタント 4 名

当日のプログラム

あいさつ

議 題

将来ビジョンに向けた具体的提案その 1

- ・ グループ討議
- ・ グループ発表

その他



(1) あいさつ

冒頭に企画政策課長補佐があいさつを行いました。

続いて、第 5 次総合計画策定に関する庁内の進行状況などについて報告しました。

(2) 将来ビジョンの設定について

第 3 回で出された将来ビジョンについて、事務局で 3 又は 4 つに整理した旨を報告しました。

< Aグループ >

前回のグループ内での意見交換を踏まえて、「人と川の原点は農」「未来へつなげる エコ長久手」の 2 つの将来ビジョンを融合し、「万博の理念を継承するまち」としました。

< Bグループ >

長久手町の新たな課題として、「75 歳～住みたいと思う花園のまちづくり(世代がつながるまちづくり)」としました。また、もう一つの交通を活かしたまちづくりは、町内でも重要課題として検討中であるため、住民の皆様からの参考意見として町内で伝えていき、施策の検討にすることをお伝えしました。

< Cグループ >

「長久手の遺産を資産へ 長久手パラダイス」「町民一人一芸」の 2 つの将来ビジョンについて検討することにしました。

(3) グループ討議 及びグループ発表

前回、各グループで設定した将来ビジョンの具体的な提案について、意見を整理しました。また、各グループで話し合われた内容、グループ討議の結果を発表しました。

A グループ



将来ビジョン：『万博の理念を継承するまち』

2つのテーマのうちの1つ「人と川の原点は農（自然の再生）」

発表

- ・香流川を中心にした自然再生と農について討議を行った。香流川の遊歩道は、リニモの公園西駅周辺は既に整備されているので、さらに下流の平子橋辺りまで整備されるとよい。現在は片側しか整理されていないので、兩岸を整備し、香流川全体を山崎川や五条川のように桜並木にし、桜の名所にした
 - い。
 - ・公園西駅と長久手古戦場駅までのサイクリングコースを整備し、町外から来る人のためにもリニモに自転車を乗せて長久手へ来られる、サイクルトレインを走らせたらどうか。
 - ・最近の香流川の水質は、自然生態系が維持され魚も増えて、非常に綺麗になってきているようだ。子供達と一緒に魚釣りが出来たり、安全で管理されている場所があると良いのではないかと。魚が増えてきたらイベントなどを開催し、釣った魚を天ぷらにできるくらい、さらに川が綺麗になると良い。
 - ・農については、農地は行政の縛りがあるようになかなか簡単にはいかないかもしれないが、住民農園を重視していきたい。私自身も現在、長久手の農学校に入り、野菜作りの指導を受けている。それ以外にも、土地を借りて野菜作りを行っているが、はっきり言って非常に不便である。水もトイレもない。全部自分で耕して、水も自分で持ってこないといけない。ござらっせを拡張して農園をつくり、談話室や図書室を農について話せる談話室や農に関する書籍が置かれている図書室などがあったり、何も道具を貸してくれ、苗も種も売っていて、肥料も何もかも全部置いてあって買うこともでき、着替えもできる場所であれば、手ぶらで来て農作業ができて、自分で作ったものを持って帰れる。このような、観光農園的なものが出来れば、里山を保全しながら、現在使われていない田畑を活用できるのではないかと。
-

意見交換

C グループ：先回に議論された香流川の再生については、何か議論はあったのか。

A グループ：一つは、遊歩道の整備について、公園西からござらっせまでは整備済みだが、その先の下流は交通量が多いので、整備できない状況であるという話が出た。ここでは、現在とは違う路線で都市計画道路（瀬戸大府東海線）の計画はあるが、いつできるかは未定だそうである。しかし、将来に向けての希望として提案とした。

C グループ：川自体の再生については意見はなかったのか。

A グループ：我々のグループの精神は、香流川自体の再生が第一だと考えた。魚が住んで子供たちが気軽に川に入れて、魚が釣れて食べれるくらい、きれいな川を目指したい。

グループ討議の結果

- ・自然のダム
（里山・田の保水力）
- ・里山の再生
- ・湧水を活用・整備
自然生態系へ

川

- ・川を楽しむ場所と時間
- ・魚釣りの技を子供達へ伝承
- ・子供が安全に川に入れる場所
- ・魚をとってその場で天ぷらにできるイベント
- ・防災面へも配慮
自然を守る部分と安全にする部分を区分する

- ・桜並木整備

農

- ・住民農園
休耕田・畑を活用
名古屋からリノモで来てもらう
気軽に手ぶらで来てできるように
（施設の整備や教え手の配置）
- ・農園希望者へ仲介する仕組み
新規参入を促す、耕作放棄地を減らす
- ・昔の農機具 展示
- ・女性も誰でもが農に親しめる環境づくり
（談話室や図書室があり、指導員がいる
農具もある、苗も購入できる）

自転車

- ・一級のサイクリングロードに
- ・前熊橋～溝下橋を集中的に整備（観光にも）
- ・溝下橋はサイクリングロードを立体化
- ・藤が丘～公園西駅、サイクルトレイン
- ・サイクリングロードは両側を整備
- ・交通量が多く危険な箇所は遊歩道の整備を

B グループ



将来ビジョン：『75歳～住みたいと思う花園のまちづくり』 (高齢者から子供まで元気な暮らし)

発表

- ・75歳を過ぎると、外出するのが億劫だったり、病気になったりする。また、1人暮らしになる場合もある。そういった方達が生き生きと暮らせる町にするため、75歳(シルバー)の方達が生き生きと暮らせるプランを考えた。例えば、ゴルフなど趣味の集まりの場を作ったり、定年退職した方たちが専業農家を行ったり、「75歳になったら友達100人」を目指して老人憩いの家などをもっと活用できるようにしたらどうか。
- ・また、子育て世代を考えると、同じ年齢の子供を持つ親同士の集まりはあるが、長久手町には核家族が多く、なかなか外に出る機会がないなどの悩みがある。夫婦が昼間働きに出ている間、おじいちゃんおばあちゃんが孫の面倒を見ることも多く、孫を連れていける場所が必要ではないか。昔はあった隣近所の人達が見守ってくれるようなコミュニティがあると良い。また、現在は自治会の加入率が減っている問題もあり、コミュニティが復活できると良い。
- ・高齢者の方達が持っている知恵を若い人に伝える場があると良いのではないかと。知恵や特技を登録する人材バンクは現在もあるが周知されていないので、人材バンクに登録してもっと活用できるシステムにしていったらどうか。高齢者のケアや医療機関のネットワーク作りも重要だと考えているが、人材バンクを活用させることと、高齢者が生き生きと暮らせ、外へ出て行きたくなる場所(ex.花園ハウスなど)について、次回詰めていきたいと思う。

意見交換

Aグループ：憩いの家には駐車スペースがない。歩く方が体に良いと思うが、長久手は坂が多く、身体障害者の方もみえる。少しでも駐車スペースがあると良いと思う。

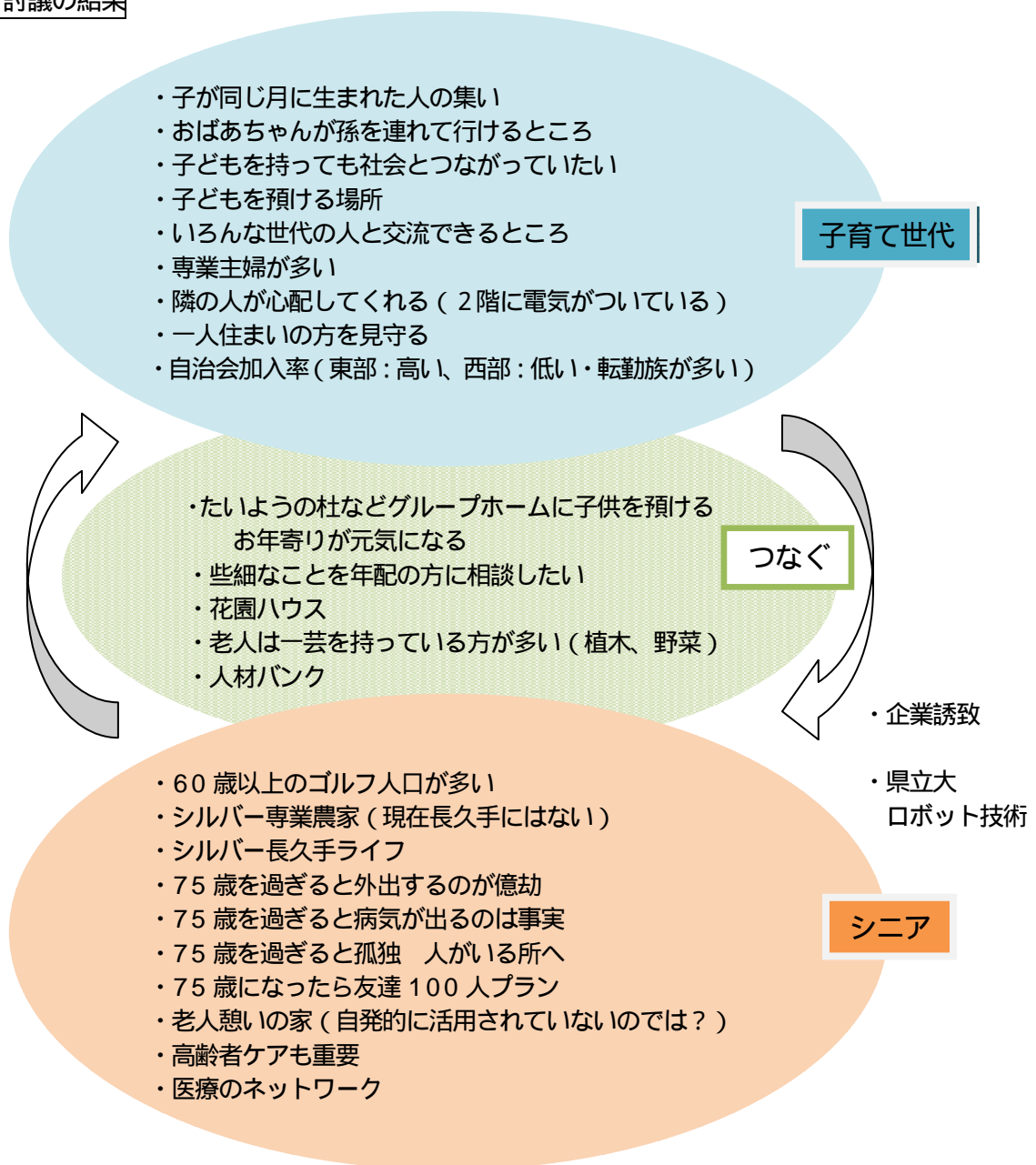
事務局：意見として承る。

A グループ：高齢化が進んでいる市町村は財政的にも圧迫しており、長久手町とは随分違う施策がある。長久手町はまだ非常に若い町だが、10年15年先は高齢化が進むと予測される。敢えて今、75歳というキーワードを掲げて何か新しい提案をして頂けることは、非常に重要だと考える。高齢化が進んでいる町は子供が帰ってこない場合が多い。将来、長久手町が高齢化になっても子供達が最終的に戻ってくるようなまちづくりを行えば、町がいつまでも良い町でいられると思うので、早いうちから高齢化を意識した町づくりは必要である。是非、皆さんの知恵で新しい提案をして頂きたい。

B グループ：まずは、75歳以上の医療負担の問題をどのように解決するかが第一であり、行政は現実起こっている問題を加味しながら考えていかないといけない。

B グループ：75歳という年齢は、後期高齢者ということだけでなく、病気が出てきたり、外出が億劫になったりする。75歳が1つのキーワード。

グループ討議の結果



C グループ



将来ビジョン：『長久手の遺産を資産へ 長久手パラダイス』
(長久手ブランディング)

発表

- ・万博後の長久手が目指すべき方向性について考えた場合に、戦国時代から現在まで継承されている棒の手や、種子島の鉄砲を使ったお祭りはあるが、世界へ発信できるようなイベントはあまりない。そういう遺産をうまく利用しながら新しい発想をして、将来ビジョンである「長久手パラダイス」を実現していく手段として、新しい発想の芸術祭を行ったらどうかという提案があった。それにはいろいろな仕掛けや基本テーマも必要になってくる。それらがユニークでないと、誰も人は来てくれないし、世界からも人を呼べないし、いろんな人材も発掘できない。
- ・モリコロパークにはサツキとメイがあり、昭和30年ごろの環境が再現され、現代の課題である省エネ・エコの生活を体現している。サツキとメイにちなんで宮崎駿さんというニックネームを呼べたらと思う。皆さんになじみが深く、世界でも日本のアニメは知られ、非常に評判がよいので、アニメと環境を結び付け新しい芸術祭を起こし、1年中リレー的に毎月、毎週、様々なイベントを展開したらどうか。長久手の既存の資産としてオマントや警固祭があり、文化の家で行われているオペラコンクールが世界へ飛躍できる芸術家を輩出しているようであるから、それらも含めて大きなテーマを決め、1年間を芸術祭として展開したよいのではないか。大阪万博の時はシンボルとして太陽の塔があったし、長久手でも何か大きなテーマがあるとよい。
- ・この他、テーマ性としてローマ法王を呼んだらどうかという案や、万博の遺産として太陽電池などの技術を使った新たな交通手段として、宮崎駿のトトロで出てくる猫バスにちなみ、「N バス」と「ECOバス」を走らせたらどうか、という提案が出た。様々な発想の中で全く新しいテーマを作って、世界中から芸術祭に人を呼ぼう、住んで楽しい町づくりを目指すということで、芸術祭を考えた。それに基づいて、長久手がどういう位置にあるのかということ、色々な資産や万博などを内容わけをして頂いて、こういう形になった。今度、どういう形に進めていったらいいかを展開すると非常に面白いと思う。

意見交換

- C グループ：先程の説明の補足として、長久手が全国区になることを目指して、サツキとメイというキーワードを取り上げた。ちなみにサツキは長久手町の花であることも町職員の方の説明でわかった。また、万博の遺産である環境活動、それから長久手町に芸術大学を中心とした研究機関があるから、これらのものをうまくコラボレートしながら長久手町の価値（バリュー）を向上するということにつなげていきたい、というのが検討結果である。
- B グループ：芸術祭というのは良い発想だ。ローマ法王を提案した方はなかなかのものだ。カンヌ映画祭を目指すといい。
- A グループ：ローマ法王はカトリックの頂点に立つ人で宗教だから、行政や住民の中に特定の宗教を入れるのは、どう考えるか。
- C グループ：この点について役場の方では絶対に発言できないので、住民の提案としてあえて発言した。
- C グループ：インパクトのある人ということ で言った。サツキとメイも勝手に使っているのかという意見も出たが、我々が目指したい方向として提案した。

グループ討議の結果

